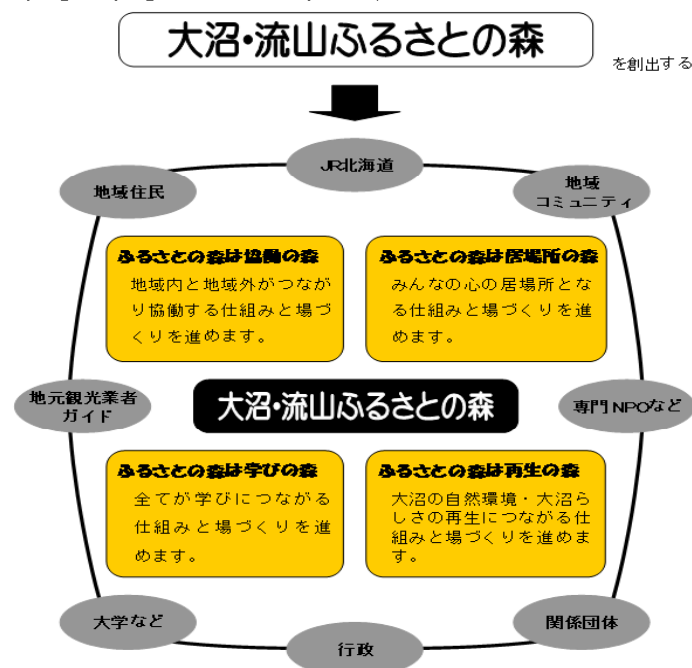


## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	大沼・流山ふるさとの森 地域に根ざすNPOと企業の連携
主体	JR北海道、NPO法人ねおす
背景 (地域の課題)	JR北海道の元・開発予定地だったが、一部に温泉とパークゴルフ場を設置した以外は土地が眠っている状態だった。対象地のうち「農地」が47ヘクタールあり、新たな土地利用計画が必要になった。当初、観光事業をおこすため、観光協会などとの協議を図ったが、なかなか魅力的な活用計画がたたなかった。
手法/方策の詳細	<p>北海道内で自然学校を中心にエコツーリズムなどを企画運営しているNPO法人ねおすに資源調査を依頼。以下のような方法で、ソーシャルキャピタル化として、「大沼・流山ふるさとの森構想」を構築した。</p> <p>第1ステップ:地元と専門家、NPOとの研修会で地元学を実施し、何を活かし、どう展開できるかを考える。同時に、地元とのネットワークを構築した。</p> <p>第2ステップ:NPOねおすの企画協力により、「大沼ふるさとの森自然学校」を設立。</p> <p>第3ステップ:土地活用方針・コンセプトを明確化し、「大沼・流山ふるさとの森構想として計画策定」。</p> <p>第4ステップ:試行的取組として、JR北海道が首都圏から子どもたち1週間程度のキャンプを実施。試行活動を経て計画を練り直し、さらに新たな企画を加え、現在、地元、NPOと連携して、森の子育てサロン、森の幼稚園、森林づくり塾、大沼ジュニアレンジャー、ファミリーキャンプなども実施している。</p>
手法・技術的視点	NPOと連携することで、企業が観光協会以外の多様なセクターや地域住民と連携可能になり、ツーリズムの内容も構築できる。

「協働」・「居場所」・「学び」・「再生」の仕組みと場を作り出す森



参考資料

里なび研修会in北海道 宮本英樹 NPO法人ねおす専務理事